

## 中東調査会レセプションにおける挨拶

2015.7.30

在オマーン大使 久枝譲治

在オマーン大使の久枝譲治でございます。先ず、中東調査会に対し、私共中東・北アフリカ地域の公館に対する日頃のご支援に深く感謝申し上げますと共に、本日このように盛大なレセプションを開いて下さったことにつきまして、厚く御礼申し上げます。

最近日本では、連日の暑さがニュースになっていますが、ここにいる多くの大使にとって、任地の気候の苛烈さは日本とは比較になりません。私の任地マスカットも、5月以降、連日40度、時には45度を超える日もありますので、「今日は暑かった」というだけではニュースにはなりません。

中東地域は、気候のみならず、様々な意味において世界で最もホットな地域であります。今回の大使会議での議論にも見られるように、中東和平、資源の確保、我が国自身の経済発展を睨んでの各国との関係強化、各国の治安・テロ情勢、邦人の安全といった従来の問題に加え、地域情勢とりわけイラク、シリア、イエメン等の状況は誠に深刻であります。イラン核合意、またそれに関連してサウジ、イスラエルを含む地域の主要プレイヤー及び欧米その他の国々との関係、そして、ISILを始め過激化の一途を辿るテロの問題等々、我が国が関係国と協力して取り組むべき喫緊の課題は枚挙にいとまがありません。来年我が国が議長国を務める伊勢志摩サミットでは、中東情勢は、最重要議題のひとつとなるでしょう。

私共にとって大変有難いことに、日本政府は安倍総理のリーダーシップの下、中東地域に高い優先度を与え、政権発足以来、総理は5回、岸田外務大臣は2回にわたってこの地域を訪問されました。また、私共在外公館に対しては、総理官邸、各省庁及び国内関係機関、民間企業を挙げて有形無形の支援を頂いております。ここに出席する大使を代表しまして、厚く御礼申し上げます。

私は、この中では比較的古手の外務省員なのでよく分かるのですが、こうして同僚大使の顔ぶれを見渡しますと、よくもまあこれだけの精鋭をこの地域に集めたものだと思います。我が国の中東地域重視の姿勢を表すものとして心強い限りであります。

ところで、オマーン的首都マスカットにある日本大使公邸は、オマーン湾を望む海岸に面した小高い丘にあって、天気の良い日は沖を行きかう大型タンカーがよく見えます。その中には日本船舶も多く含まれます。西の方向、すなわち左手はホルムズ海峡を経てペル

シャ湾に至るわけですが、この海峡を通航する船舶の航路帯は全てオマーンの領海内にあります。最近 NHK 番組を見ておりますと、国会で審議中の平和安保法制に関連して、海上自衛隊の掃海艇とおぼしき艦船がホルムズ海峡に向かう概念図がしばしば出てまいります。私は、その絵を見る度に、公邸の窓から海を眺めているような錯覚に囚われます。絵と共に、我が国が輸入する石油資源の約 8 割がこの地域からであるという説明が出て参ります。そうした実態が多くの国民の知るところになることは、大変有難いことでもあります。

更に、日本発ニュースに耳を澄ましておりますと、今般のイラン核合意により、ホルムズ海峡の機雷除去が必要となる可能性は殆どなくなったとか、あるいは、機雷の除去は武力の行使に当たるので、石油資源の供給が止まるといった経済的理由でこれを行うことは憲法違反であるといった議論が聞こえてまいります。私は、ここで憲法解釈を論じるつもりはございませんが、現場の一大使としての観察を述べますと、中東情勢は、複雑怪奇でございまして、この地域ではいつ何が起こっても不思議ではないということでもあります。また、我が国にとって中東地域からの石油資源が途絶えることによるインパクトの大きさは、単に「経済的」の一言で表現し得るものではないという気がいたします。

私が思い出すのは、堺屋太一氏が 1975 年に書かれた「油断」という本です。私は、この本を学生時代に読んだのですが、要するに、中東戦争によって我が国の石油備蓄が底を尽き、我が国が崩壊していく姿を描いたシミュレーション小説です。その中で、特にショッキングで、今でも覚えているのは、危機勃発の 200 日後には死者が 300 万人を数え、国民財産の 7 割が消失するというシミュレーションです。勿論、これはあくまでも 1975 年当時のひとつの想定でありまして、備蓄その他諸般の情勢が異なる今日、そこに書かれている通りのことが必ず起こると申し上げるつもりはありませんが、少なくとも私は、この地域に派遣された大使として、中東からの石油資源が止まることは、我が国にとって数十万から数百万単位で人が死ぬほどのマグニチュードの話だという重大な覚悟を持って、仕事をしているつもりであります。

私達大使は、我が国の中東外交の最前線に立って常にアンテナの感度と精度を研ぎ澄まし、最大限に想像力を働かせながら任に当たりたいと考える次第です。引き続きよろしくお願い申し上げます。

ご清聴有難うございました。そして、本日は本当に有難うございました。(終わり)